



西牧野小だより

4月
1号

枚方市立西牧野小学校通信

TEL 050-7102-9116

FAX 072-851-0035

令和8年4月8日

校長 青木 智充



入学・進級 おめでとうございます

校庭の桜の花も咲きそろい、春本番を迎えました。

保護者の皆さまにおかれましては、お子さまのご入学、ご進級おめでとうございます。平素は、本校の教育活動推進に、ご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。

今年度は4月6日に新入生32名を迎え、全学級数16学級（通級指導教室を含む）、全校児童数261名で、スタートいたしました。

「見えない力」が「見える成果」を支える ～自己実現と協働の質を高める一年へ～

さて、校長として西牧野小学校に着任して今年度で4年目となりました。今年度も子どもたちの成長を間近で見守れることを大変嬉しく思っております。

本年度の始業式、私は子どもたちに改めて「学びの本質」について話をしました。

■ 学力（認知能力）を支える土台とは

例えば「算数の力を上げよう」と決めた時、子どもたちはドリルを解いたり、教科書に向き合ったりします。しかし、それを支えるのは単なる知識ではありません。

○毎日コツコツと続ける「継続力」

○「もっとできるようになりたい」という「向上心」

○やる気が出ない時や疲れた時に自分を立て直す「回復力（レジリエンス）」や「自制心」

これらは「非認知能力」と呼ばれ、テストの点数には表れにくい「見えない力」です。昨年度から取り組んでいるマインドフルネスも、この「自分を整える力」を育む大切な柱の一つです。

■ 「自らつながり、助けを求める」という勇氣

また、自分一人では解決できない壁にぶつかった時、周囲に「教えて」「助けて」と言える力も、これからの時代を生きる子どもたちにとって不可欠な能力です。

コミュニケーション能力、共感性、協調性。

他者とつながる力が豊かになれば、そこでの対話が刺激となり、結果として学力（認知能力）の向上へと繋がっていきます。

■ 「習慣」を評価し、価値付ける

非認知能力は「思いやり70点」といった数値で測ることはできません。だからこそ、私たちは子どもたちの「変容」と「行動」を丁寧に見守りたいと考えています。

○例えば、「誰にも話しかけられなかった子が、友達に相談し始めた」

○「一歩踏み出した行動が、いつしか継続的な行動になり、習慣になった」



こうした行動の変化を、教師と子ども、そして保護者の皆様がともに認め合うことで、子どもたちの自己肯定感は高まります。

今年度も、本校は以下の二つの柱を大切にしていまいります。

学校経営の基本方針

○学校教育目標 **目の前にいる子どもと向き合う**

「自己実現」・・・自分のよさに気づく（自己理解） **対自分**

「協働」・・・集団生活の中で自分の役割を担う **対他者**

○めざす子ども像

①自ら考え自ら学び行動する子（夢や志をもって主体的・協働的に学び、行動できる力）

②心豊かで思いやりのある子ども（違いを認め合い、自分も他者も大切にすること）

③ねばり強い子ども（何事にも自分が納得するまで取り組む姿勢）

○めざす学校像

①児童一人ひとりの可能性を伸ばし、自信を持たせる活力ある学校

②思いやりや協働の心に満ち、安心・安全に過ごせる学校



自分を客観的に見つめる（メタ認知）ことができれば、自分をコントロールし、より良い人生を自ら切り拓く力になります。

自分の良さを見つける。友達の良さを褒める。自分も友達も大切にし、いじめのない、誰もが安心して挑戦できる西牧野小学校を、今年度も教職員一丸となって創ってまいります。

保護者の皆様におかれましては、今年度も変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

地域の皆さま、西牧野小学校を支えてくださっている関係者の皆さま、今年度もよろしくお願いたします。